

来秋開幕 ラグビーW杯



テクヒートワールドの神戸市を
プロが2019年に神戸市を
含む12都市で開催される
。そこで私たちは、神
戸製鋼コベルコステー
ラーズの重一生（しげ
いっせい）選手に日本代
表選出に向けての意気込
みや選手に対するメンタ
セージなど、インタビ
ューを行った。

選選手は兄の影響で2
歳の頃からラグビーを始

という言葉から「ラクリー」というチームスピリットが絶対に代表選手になつてやるという強い思いが伝わってきた。

ラグビーの魅力については、「一体と体のぶつかり合ひなどまるで技のような感覚で楽しめるところ」。選手の体格は色々でポジションも色々あるため、選手1人ひとり

りをじっくり見ることがができる」と話していました。最後に、私たち中高生の道や可能性がある今のうちには、自分のやりたいことに目を向け、いろんなことを犠牲にする覚悟を持ったつゝです。毎日を振り返って後悔のない日々を送ってほしい」と心に響き、熱いメッセージを伝えてくれました。

つた重選手。ぜひ今後
活躍に期待し、たくさ
応援したい。

た。国によつてもアーモンドの内でもその戦術が全然違つたからこそ、彼らはそれを認めなかつたのである。

日本代表を目指す重選手

神戸製鋼コベルコスティーラーズ



アジア地域では初の開催となる9回目の「ラグビーワールドカップ」が来年の9月20日～11月2日の44日間、日本全国12都府県で開かれる。4年に一度開催されるオリンピック・サッカー界三大スポーツイベントは世界から20チームが参加。日本ではイングランド・アイルランド・スコットランド・南アフリカなどの強豪国との試合が行われる。

神戸が開催都市に選ばれたのには大きな理由がある。1つ目は社会人ラグビーの名門チームがあること。2つ目はラグビー文化が入り付いていること。3つ目は外国人が多く世界に開かれた都市

である。そこで、国際規格の球技専用スタジアムアーム、球技場があることなどは、中でも最大の理由は、神戸が「国際的」な都市であることだと感じた。神戸市教育委員会でラグビーワールドカップを担当する二矢川唯さんは、「今度の大会をきっかけに、より神戸の街を活性化させたい」と語る。試合が行われる日以外も国内外のお客さんに市内を満喫してもらいたい。帰国後もう一度神戸に行きたいと思ってもらいたいことがねらいだ。

そのためには、計画していくおもてなしの「アンバサダー」だ。大画面での試合の生中継やラグビー体験などチケットがなくとも、ラグビーの祭典の雰囲気を楽しめるようになっている。キ

A photograph of four female students standing in front of a white banner. The banner features the Japanese flag and the text "さあ、ここぞじゃない。一生に一度だ。" (This is it, it's not every day). They are all smiling and dressed in school uniforms.

A photograph showing three students from the waist down, each holding a soccer ball. The student on the left holds a white ball with blue and red accents. The student in the center holds a white ball with blue and green accents and the word 'KOBE' printed on it. The student on the right holds a white ball with blue and red accents. They are all wearing dark uniforms and lanyards.

交流を図ろうと考えてる。